

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）
考える子 心の美しい子 たくましい子	1 自ら考え、友と協働し合って問題を解決する子ども 2 友と認め合い、支え合って、互いを大切にしよう子ども 3 自ら心身の健康を求め、目標に向かってがんばりぬく子ども

今年度の重点目標		評価平均	成果と課題	
①	関わり合って考える子	2.8 B	・コロナ禍のため関わりを充実させることに難しさはあるが、話し合いが制限される中でも、友だち同士声をかけ合い、距離をとってグループでの話し合いに意欲的に取り組む姿が増えてきている。学習の中で、教え合ったり意見を伝え合ったりする姿が増えてきている。 ・校長講話の中で「あいさつでまわりの人を幸せにする」という話があったため、子どもたちの意識は高まってきている。しかし、声をかけてもあいさつを返さない子がまだ多い。あいさつのよさを体感させると共に、職員から積極的にあいさつを行ってほしい。 ・接触をさけた運動を進めている。朝の時間、身体みがき体操に取り組んでいる。外で体を動かす子とそうでない子との二極化を感じている。	
②	すすんであいさつをする子	2.4 B		
③	元気に体をきたえる子	2.7 B		
領域	評価項目	評価の観点	評価平均	成果と課題
学校教育	授業導入の工夫	①子どもたちが一時間の見通しをもつことができているか。 ②子どもたちは興味関心をもって授業に臨んでいるか。	2.9 B	○黒板に1時間の流れを提示したり、国語や算数などの授業の流れをパターン化したりすることで、1時間の見通しをもって授業に臨むことができた。 ○授業のゴールを設定し、ねらいをはっきりさせることにより、解決する見通しをもつことができ、落ち着いて授業に取り組んでいた。 ○できるだけ一人ひとりが対象物と関わるようにしたり、「なんでだろう」「どうやるんだろう」という思いをもたせたりして、興味関心を高めた。 ●進度を急ぐ面があり、子どもたちの問いを中心に学習問題を成立させることができず、意欲や見通しをもてない子がいる。
	授業展開の工夫	③子どもの意欲・意識を大切にしたい授業を行っているか。 ④体験活動や操作活動等の五感を働かせる活動を位置づけているか。	2.9 B	○視覚でとらえる学習や表現活動、操作活動を、感染対策に配慮しながら、できるだけ多く取り入れて進めてきた。伝え合う関わりを中心に据えることで、授業にメリハリがつき、友と学び合う姿が生まれた。また、友だちの考えを繋げていこうとする姿も増えてきた。 ○生活科では、五感を通した活動を大切に、子どもたちが「知りたい!」と思ったことを、調べ学習へ繋げている。 ●子どもの意欲や意識よりも「これだけはおさえたい」という思いが優先しがちであった。
	授業終末の充実	⑤自分の学びをふり返ったり、友だちの学びを認め合ったりする場を設けているか。	2.5 B	○授業の最後にふり返りを記入し、共有する時間を確保している。教師はそのふり返りから、児童の学びを把握することができる。次時への見通しやモチベーションアップにもつながっているように思う。 ●ふり返りは、わかったことの確認程度で終わってしまうことが多い。みんなで共有し認め合える時間を確保するなど、改善が必要である。
生活	あいさつが響き合う	⑥あいさつの声が校内・校外で響き合う学校に向けて取り組んでいるか。	2.6 B	○地域探検等で校外へ出たときのあいさつがよくできていたので、よさを認めつつ友だち同士でも気持ちよくあいさつできるように意識させている。 ○あいさつの大切さを理解してきているので、あいさつの仕方やよさを追求していきたい。児童会のあいさつ運動は続けていきたい取組である。 ●学級で指導しているが、あいさつができる子とできない子とで個人差が大きい。職員があいさつをしても返ってこないことがある。
	早期発見早期対応の生徒指導	⑦学年・学校として、職員が連携して子ども達の課題に取り組んでいるか。	3.2 A	○職員間で情報を共有し、同じ方向で指導を行っている。対応についても協力体制ができており、迅速な対応ができています。特に学年内で、児童の様子についてじっくりと話し、相談しながら対応している。 ●心配な児童に対して、学校としての組織的な対応を進めていく必要がある。
学級経営	学級づくり・仲間づくり	⑧道徳や特別活動の時間で、子どもと教師間・子どもと子ども間の信頼関係を構築する活動が行われているか。 ⑨子どもが自分を見つめ直したり所属感を高めたりできるような相談・面接活動を行っているか。 ⑩体の成長に目を向けたり、積極的に体を動かしたりするような環境づくりや子どもたちへの働きかけを行っているか。	2.9 B	○一人一人に係の分担をつくり、よい活動はみんなの前で褒めて自己有用感を高めるよう心がけた。レク係が休み時間の遊びを計画し、クラスみんなで楽しめた。 ○クラス遊びやレクリエーションを多く取り入れ、子ども同士の関係を深めてきた。友だちの知らなかった一面を知り、友だちの輪が広がっている。 ○一人ひとりを大切にできたつもりである。道徳の学習カードや心のもさしを作成した。自分や他者に目を向けて取り組んでいられる授業を心がけている。 ○相談ウィークで面談を行っているが、平日頃から一人ひとりの児童に声をかけるように意識している。1週間の間で学級全員の児童と話をし、様子が違うときには時間をかけて話をしている。子ども同士をつなぐために席替えやグループ作りにも気をつけている。 ○コミュニケーションを多くとるよう心がけている。先が見えない中の不安軽減につながっていると見受けられる。 ○子どもたち一人ひとりのよさを確かめ合い、認め合い、大切にすることで、すべての子が学級に位置付くように努力してきた。どの子も大事な存在だということを確認している。また、子どもたちが活躍できる場を設けるよう心がけている。 ●体を動かす時間を確保するように心がけてはいるが、自分の体の成長についてはこれからもう少し学習として取り組んでいきたいと思っている。
学校運営	適切な情報発信	⑪学校・学年・学級の指導方針や様子について、学級懇談会やお便り、HPなどでわかりやすく伝えているか。	2.8 B	○おたよりやホームページ等を活用して学校の様子を具体的に知らせている。学級通信をとおして、子どものよさを知ってもらうようにした。 ●例年行われている学級PTAがほとんどないため、保護者とのコミュニケーションが不十分だと感じる。 ●学級通信をもっと出さねばと思っている。忙しさの中で後回しにしてしまった。
	PTAとの連携	⑫PTAと協力しながら、よりよい学習活動や学習環境作りをめざした活動が行われているか。	2.5 B	○学校からお願いしたことに対してとても協力的である。登山では多くの変更があった中で、ボランティアとして対応していただいた。 ●コロナ禍で、PTAの皆様と共に活動していく機会がなかなかとれない。
	地域との交流	⑬神川小ボランティア・学習ボランティアがスムーズに行われているか。	2.5 B	○米作りをとおして、貴重な体験をさせていただいている。他にも給食ボランティア、ミシンボランティアなどご協力いただいた。 ○日本語教室では、連絡を密にとって積極的に関わっていただけよう努めている。 ●今年度はコロナ禍のため、ボランティアの方々へ学校へ入っていただくことが難しい状況である。
研修	授業改善の研修	⑭「明日もきたくなる学校」の具現に向け、授業力向上のための研究や研修が実践できているか。	2.7 B	○「公開デー」をとおして、お互いの授業を見合い、研修を行っている。参観のポイントを明確にしているため、大変よいと思う。 ○子どもは何を学びたいのか、興味をもつのか深く考え、短時間で効率よく興味をもって取り組める授業をめざし、教材研究を行っている。 ○学年会、重点研究で話し合いを行い、今だからこそ「楽しい授業」をめざし、実態に応じた展開や発問を工夫している。 ●子どもたちにとって「自分らしくあれる学級づくり・授業づくり」に課題を感じている。